

四方山話



言語における10歳の壁（私見）

三野 州豊

いきなり堅い話ですみません。皆さんは今の海外生活は何回目ですか。今回仕事で初めての方や複数回経験の方。ご自身が子どもの頃に親に連れられて帰国子女だった方等々、様々なキャリアがありましょう。そんな経験の中で、どなたにも共通した壁に「言語」は大なり小なりあったのではないのでしょうか？

CJS の子どもたちも育った環境に違いはあれ、言葉について子どもなりに正面から向き合っています。頑張っています。

発達段階としてある時期を境に、学習においては抽象的な表現による「問い」が増え、抽象的な思考を求められ、表見方法も具体と抽象をバランスよく求められます。心理的にも自身を客観的に捉え、自我について新たな芽生えが始まります。それが9歳10歳頃といわれています。個人差はありますが、この時期の成長時に大事な関所として、「10歳の壁」があります。

この10歳前後には、母国語の基本的な「言語理解」「言語表現」が安定し定着し、語彙力も一段と伸び始めます。つまり母国語が固まりつつある時期に差し掛かるということです。よって学習の内容もその母国語を軸に、より広い社会性も育みつつ論理的に高度なものになっていきます。

子どもたちは親の愛と海外という生活環境に恵まれ、複数の言語に出会えています。日本の中学生小学生のほとんどが経験できない生活を過ごしています。羨むほどです。中でも幼い頃より海外に過ごしている子は、複数の言語をスポンジのように戸惑うことなく吸収していきます。そこで言語における10歳の壁に差し掛かるときポイントがあると思います。

あくまで私見ですが…

- ・複数言語が同時に第一言語にはなり得ない 母国語は一つである
- ・どちらかの言語が薄まる時期があるが慌てない焦らない 急かすと嫌うようになる
- ・一番避けたいのは 複数言語が互いに邪魔をし合って語彙力が中途半端になること
- ・母国語が安定して初めて論理的な高度な思考が身につき始める 語彙力がつき始める
- ・本人の目的意識「志」があり必要感を持って第二言語を学ぶとき 母国語が深いほど第二言語も引きずられる様に深まる
- ・バイリンガルは同時に同レベルの語学力が付くのではなく まず母国語が先行する時期があること

ある人に言われました。英語が話せなくても、書けなくても「英語で夢を見るようになれば恐くなくなる」…。小生はいつインドネシア語や英語で夢を見ることができるのでしょうか。ずっと日本語です。英語字幕も出ません。

